

## 越後白雪茸研究会について

当研究会は、新潟産の機能性素材の一つである越後白雪茸の健康効果に着目し、その生理機能に関する学術的研究を進め、その成果を広めるとともに人々の健康に役立つ商品開発に応用する企業や個人に資することを目的に、平成 22 年に発足いたしました。

研究会は研究者や健康食品業者、個人会員など幅広い会員から構成されております。毎年、越後白雪茸に関する研究成果の報告に加えて、健康機能食品やその応用など関連する幅広い分野の最新の話題など、教育的な講演を研究会例会のプログラムを組んでおります。

## 越後白雪茸について



左の写真は、栽培中の越後白雪茸です。

平成 11 年に新潟の山奥で発見されたときは、世界三大珍味の最高級品の白トリュフにそっくりであることから、白トリュフとして学会発表されました。マスコミからも「新潟で白トリュフ発見」と報道されました。

しかし研究が進むにつれて、白トリュフでないことがわかりました。

越後白雪茸は、遺伝子レベルの研究で、椎茸や舞茸と同じ担子菌類である特徴をもっています。

しかし担子器を形成しないため、胞子を出しません。そのため椎茸やエノキタケのようなキノコの形を作

りません。栽培された環境に合わせて、様々な形に育ちます。

また、塩基配列が過去に発見されたキノコと同定できないために、新種のキノコとして世界 11 か国で特許が取得されています。

研究が進むにつれて、聖マリアンナ医科大学で、免疫賦活作用があることが発見されました。それを皮切りに多くの研究機関で抗酸化力、アトピー改善効果、花粉症対策、エイジングケア、メタボ対策等、様々な研究が進められています。